

須賀川市民交流センターtette

シンポジウム開催報告

2018年2月20日

アカデミック・リソース・ガイド株式会社 (ARG)

[実施概要]

- ・ 須賀川市民交流センターtette シンポジウム「須賀川市民交流センター“tette”の可能性～つながる図書館がまちを動かす～」
- ・ 日時：2018年2月10日（土）13:30～16:00
- ・ 会場：須賀川市役所 4F 会議室 A～D
- ・ 参加者：150名
- ・ プログラム：

時間帯	内容
13:30～13:35 (5分)	各種アナウンス
13:35～13:45 (10分)	主催者挨拶 (橋本克也 須賀川市長)
13:45～14:00 (15分)	須賀川市民交流センター施設概要 (佐久間室長)
14:00～14:15 (15分)	【第1部】基調講演#1 「市民とつながる図書館、まちとつながる図書館」 (猪谷千香氏・代理・岡本真)
14:15～15:00 (45分)	【第1部】基調講演#2 「複合施設の可能性－地域に役立つ図書館を考える－」 (伊東直登氏)
15:00～15:10 (10分)	休憩
15:10～15:55 (45分)	【第2部】パネルディスカッション 「須賀川市民交流センター tetteの可能性 ～つながる図書館がまちを動かす～」 (橋本克也氏、伊東直登氏、岡本真)
15:55～16:00 (5分)	閉会

※猪谷氏のインフルエンザ罹患による外出禁止・登壇不可により前日に急遽プログラムを変更

[実施詳細]

<市長挨拶、講演、パネルディスカッション>

冒頭の挨拶では、橋本克也市長が須賀川市民交流センターtette に込めた思いを述べた。短いスピーチであったが、tette は公共施設等総合管理計画等の財源減少に伴う公共施設の再編・統合の流れとして理解するのではなく、須賀川市の復興の象徴として整備するという意思を尊重してほしいと発言されたことが非常に強いインパクトを与えた。この発言にある市長の問題意識は後半のパネルディスカッションにも引き継がれた。

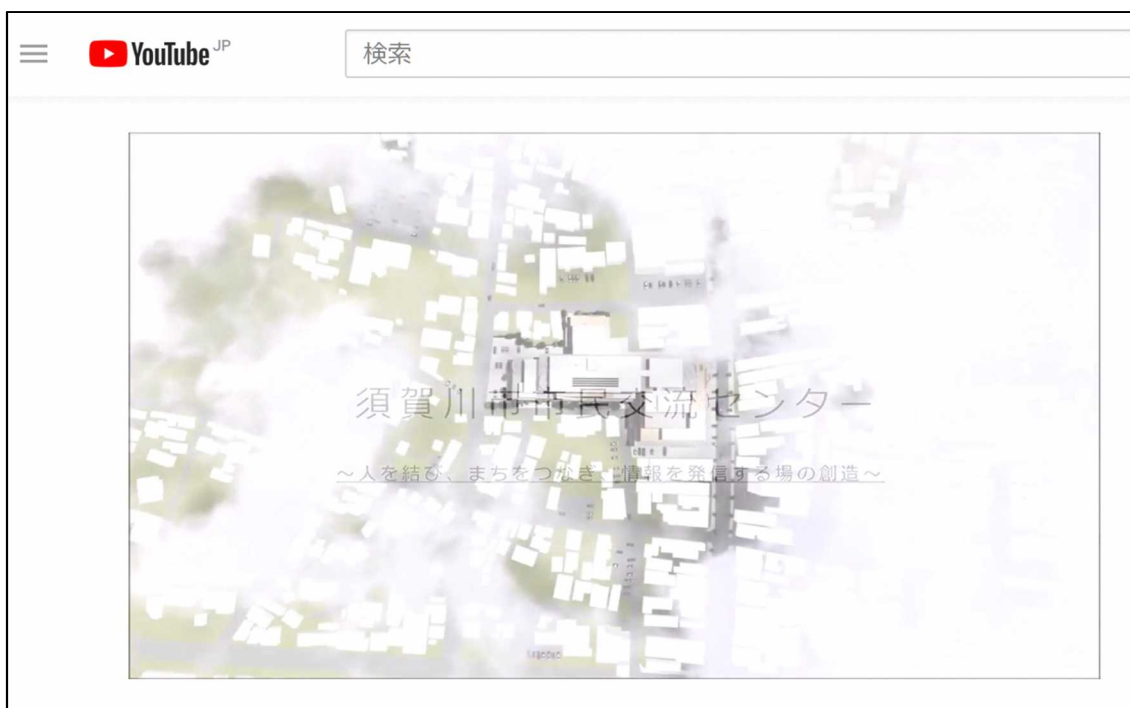


挨拶する橋本市長と説明する佐久間室長



会場風景

次いで佐久間室長が動画「須賀川市市民交流センター完成後のイメージ映像」の上映を含めて施設概要の説明を行った。冒頭で佐久間室長が整備室長の内示を受けた際に去来した思いに強くふれたのだが、本事業に須賀川市職員が真剣に携わっていることが聴衆である須賀川市民に深く伝わったのではないだろうか。市長挨拶とあわせて、行政サイドの真剣さが聴衆に伝わった一瞬であったと考える。



動画「須賀川市市民交流センター完成後のイメージ映像」

<https://youtu.be/xE9I54lxxVc>

その後、本来の基調講演#1である猪谷氏の「市民とつながる図書館、まちとつながる図書館」につき、事前にご提出いただいていた資料に基づき司会の岡本が解説を行った。これまでに何度か聴講している講演内容が主であったため、駆け足ではあったものの聴衆の方々の一定の理解の深化は得られたのではないかと。



人と地域、情報をつなげる図書館

- 図書館は最も使われている公共施設
- 財政難・老朽化による再編・複合施設化
- 地域のつながり・コミュニティの場に
- 地域活性化の施設としての機能
- まちづくりの中核施設に位置づけ
- 集客施設としての図書館に期待

紫波町オガールプロジェクト



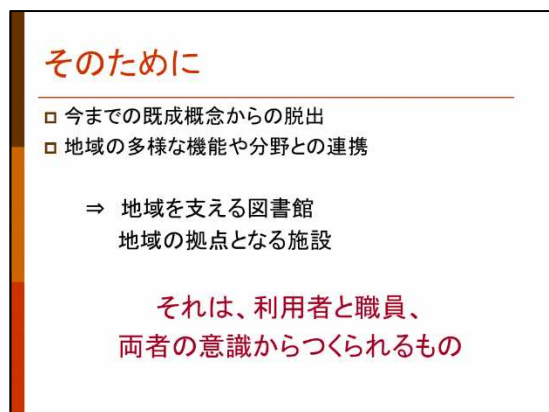
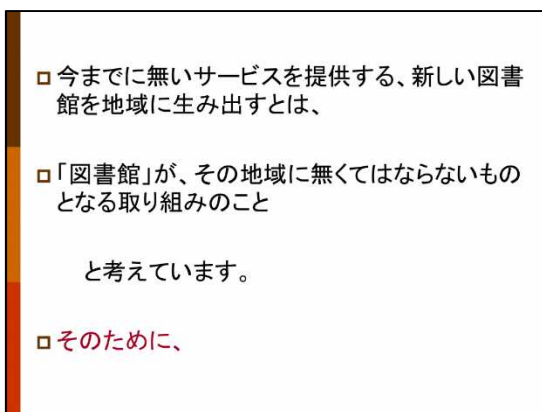
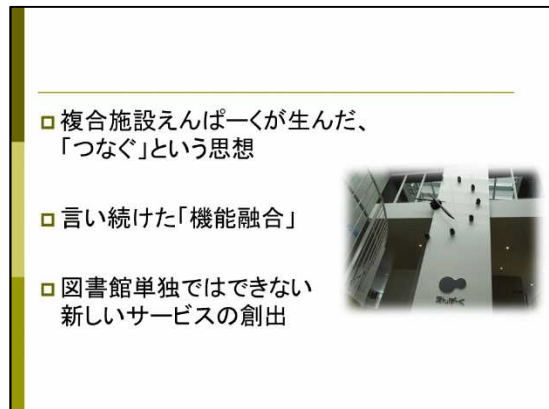
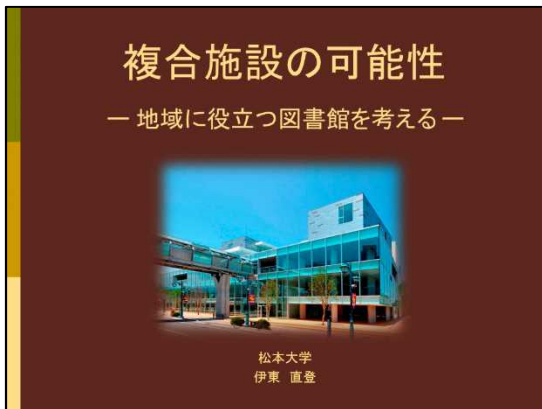
商業施設×図書館への期待

- 青森県つがる市ではイオンモール側が誘致して、新図書館開館
- 兵庫県伊丹市の「イオンモール伊丹昆陽」に伊丹市立図書館西分室
- 大阪府茨木市の「イオンモール茨木」に茨木市立穂積図書館
- 青森市の「アウガ」に市民図書館
- 徳島市の「アミコビル」に市立図書館
- 東京の二子玉川ライズ×世田谷区立図書館

猪谷氏のスライド（抜粋）

この後、講演時間延長をご快諾いただいた伊東氏による基調講演#2「複合施設の可能性ー地域に役立つ図書館を考えるー」を行った。これまで度重なる視察で須賀川市役所や設計チームと関係構築ができていたこともあり、講演内容はきわめて的確にポイントを抑えたものだった。

なかでも実際にご自身で複合施設の整備と運用に携わってきた経験に基づく、「機能融合」の重要性の訴えは聴衆の心に十分に訴えかけるメッセージであった。また後半で語られた「『複合施設を活かす』うへでは地域の本気度が試されるとき」であるという指摘、「いままでにないサービスを提供するには、いままでの既成概念からの脱出が必要である」という指摘、そのためには「『利用者と職員』双方の意識変革が必要である」という指摘は、いずれも行政と市民が今後向き合うべき課題を明瞭に示すものであったといえるだろう。



伊東氏のスライド（抜粋）

ここでいったん休憩を挟み、その後にパネルディスカッションを開始した。

ディスカッションの出だしは司会の進行により、伊東氏の講演に対する橋本市長のコメント、その市長コメントへの伊東氏の応答という形式で進んだ。この段階で橋本市長、伊東氏がともにあらためて機能融合の重要性や形式的な複合施設にならないための活動や市民の間で掛け算のような化学反応が起こることの大切さを強調したことは、聴衆の大部分である須賀川市民の方々にこれからの各自のふるまい方を問い直させるものだったのではないだろうか。

以上の議論を受けて司会から須賀川市民の方々に市民こそが須賀川市民交流センターのオーナーであること、オーナーであるという意識（オーナーシップ）を持つことを問いかけた。この問いかけは管理運営協議会や tette パートナーズクラブ準備会でも繰り返し述べてきたことであるが、150名にも及ぶ聴衆にあらためて訴えることができた意味は小さくない。

ここで会場質疑をとったところ、須賀川市出身で現在は大阪市で図書館司書として働く20代男性から須賀川市民交流センターで予定している人員体制や待遇についての質問があった。この質問への応答は盛り上がり、橋本市長、伊東氏からも複数回のコメントがあった。特に須賀川

市民交流センターにおいては、図書館業務だけに専念する司書を必要とするのではなく、市民交流センター全体を見渡して行動する人材が求められているという認識が語られた。また須賀川市図書館職員からの応答的な発言もあり、聴衆、特に市民の方々に行政・職員サイドの強い自覚と自負を示すことができたのではないか。この際に語られた職員の役割・責任論は実は利用者である須賀川市民にも求められるものであり、市民一人ひとりの脳裏に強く刻まれたメッセージとなったのではないだろうか。その後、もう一つの質疑を行った後、橋本市長、伊東氏からのメッセージを持ってパネルディスカッションを締めくくった。

以上のような展開を経て、若干予定時刻を超えた 16 時過ぎに閉会となったが、しばらくの間、会場のほうぼうで市民同士が話し合う光景が散見され、参加者の満足度の高いシンポジウムとなったことがうかがえた。

<全体の進行・反響等>

直前に猪谷氏欠席となり、急遽プログラムを大幅に上記内容に変更したが（猪谷氏の想定される講演内容を岡本が代読し、伊東氏の講演時間を延長）、特に不満等も見られず、シンポジウムはつつがなく進行した。参加人数は最大想定 の 200 名には達しなかったものの市内を中心に 150 名を数えた。大学受験シーズンであり、かつ 3 連休の初日の開催ということを考えれば集客面では成功と言えるだろう。

事前申し込みがあった参加者の内訳については別表を参照。なお、ごく数名ではあるが、須賀川市出身・所縁で他の自治体で公共図書館職員（大阪市、墨田区）が参加したことは特筆に値する。少なくとも須賀川市民交流センターtetteの整備は図書館関係者の間では認知されつつあるようだ。これは司書職の全国公募を行ったことも影響していると思われる。

なお会場後方には図書館職員の尽力によって、講演者や司会の著書等の展示を行った。思いのほか、これらの資料が手に取られていた。また配布資料とした「すかがわ、めぐるめぐ」の各号を読み込む聴衆の姿も数多く見受けられた。

参加者に配布したアンケートは 91 名（男性 51 名、女性 40 名）の回収があった（回収率 61%）。内容については「大変満足」「満足」が全体の 83%を占め、非常に高い満足度であったことがわかる。tetteへの期待という点では「ぜひ行きたい」「行きたい」が全体の 93%と圧倒的な関心が見受けられた。シンポジウムへの参加者はもともと関心が高いとはいえ、市民の間に tette の存在が浸透しつつあることがうかがえる。自由記述欄にはこの種のアンケートでは想定を超えるほどの書き込みが見られた。橋本市長や伊東氏の言葉への共感の声が多かった

が、それ以外にもいずれかのタイミングでの猪谷氏の来訪・講演を望む声や市民としての自覚に基づく協働の必要性の気づきを述べる声も少なくなかった。

[総評]

想定外の猪谷氏の病欠で始まったシンポジウムであったが、市内外から多数の聴衆を集め、開館1周年前のイベントとしては成功とあっていいだろう。既述の通り、日取り等を考慮すると150名の参加者は十分な人数であったといえる。また公務外であるにも関わらず、数多くの須賀川市役所職員が参加していたことにふれておきたい。これは各人が須賀川市在住や在勤の一人として、須賀川市民交流センターに強い関心を持っていることを、身をもって示したということであり、伊東氏も協調していた「利用者と職員」「市民と行政」のあるべき姿である。今後、市民の方々との協働を進めるうえで大きな信頼となるだろう。

なお今回は講演がかなわなかった猪谷氏であるが、ご本人は来年度中にも今回の代替となる講演の可能性を検討してくださっている。来年度は竣工・引き渡し・開館準備等で多忙を極めることが予想されるが、ぜひ企画として実現できればと考えている。

以上